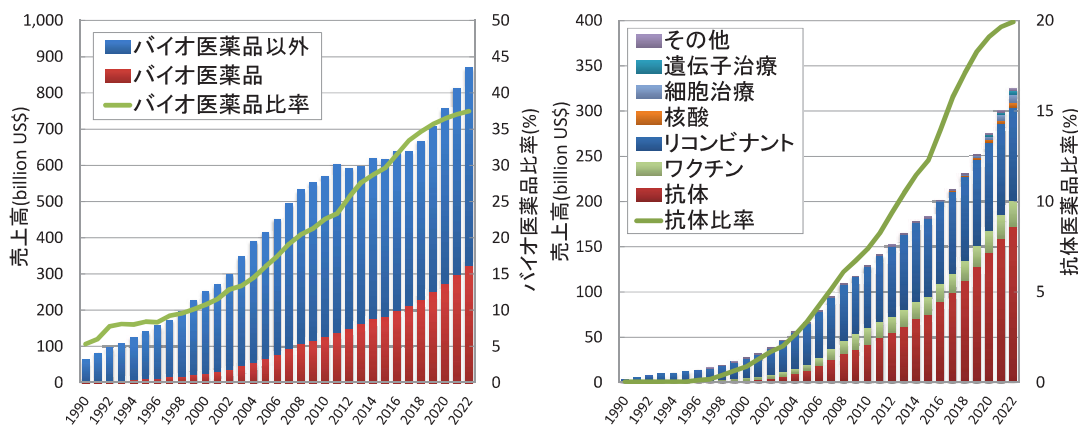


3 バイオ医薬品市場の現状分析

3.1 売上市場分析

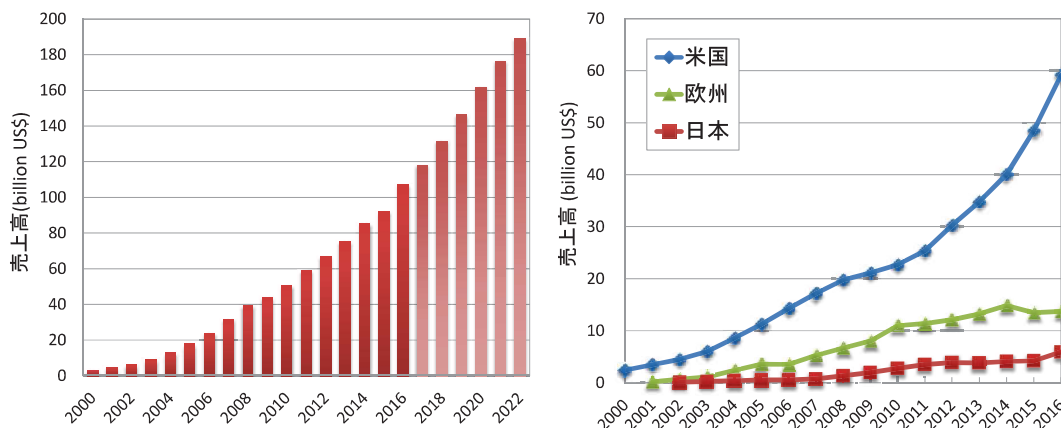
世界でのバイオ医薬品市場の推移を見ると、年々バイオ医薬品の売上高は増加しており、2016年には約2,012億ドル（バイオ医薬品比率31.5%）に達した。今後も売上の増加が見込まれており、2022年には約3,249億ドル（バイオ医薬品比率37.5%）に達するとも予測されている（図1）。世界でのバイオ医薬品市場の内訳を見てみると、サイトカインやホルモンなどリコンビナントタンパクと抗体医薬品が大部分を占めており、両市場の拡大が持続している状況である。これらの内訳比率を見ると、2005年頃は7割近くがリコンビナントタンパクであったのに対し、2017年には抗体医薬品が上回り、2022年にはバイオ医薬品全体のうち5割以上を抗体医薬品が占めることが予測されている。抗体医薬品の売上は、2016年には約891億ドル（医薬品市場の約14%）であり、2022年には約1,728億ドルで医薬品市場の約20%を占めると予想されている。また日米欧の比較では、米国が最も大きな抗体医薬品市場となっている（図2）。

図1 世界のバイオ医薬品市場の推移



出所：EvaluatePharma をもとに作成

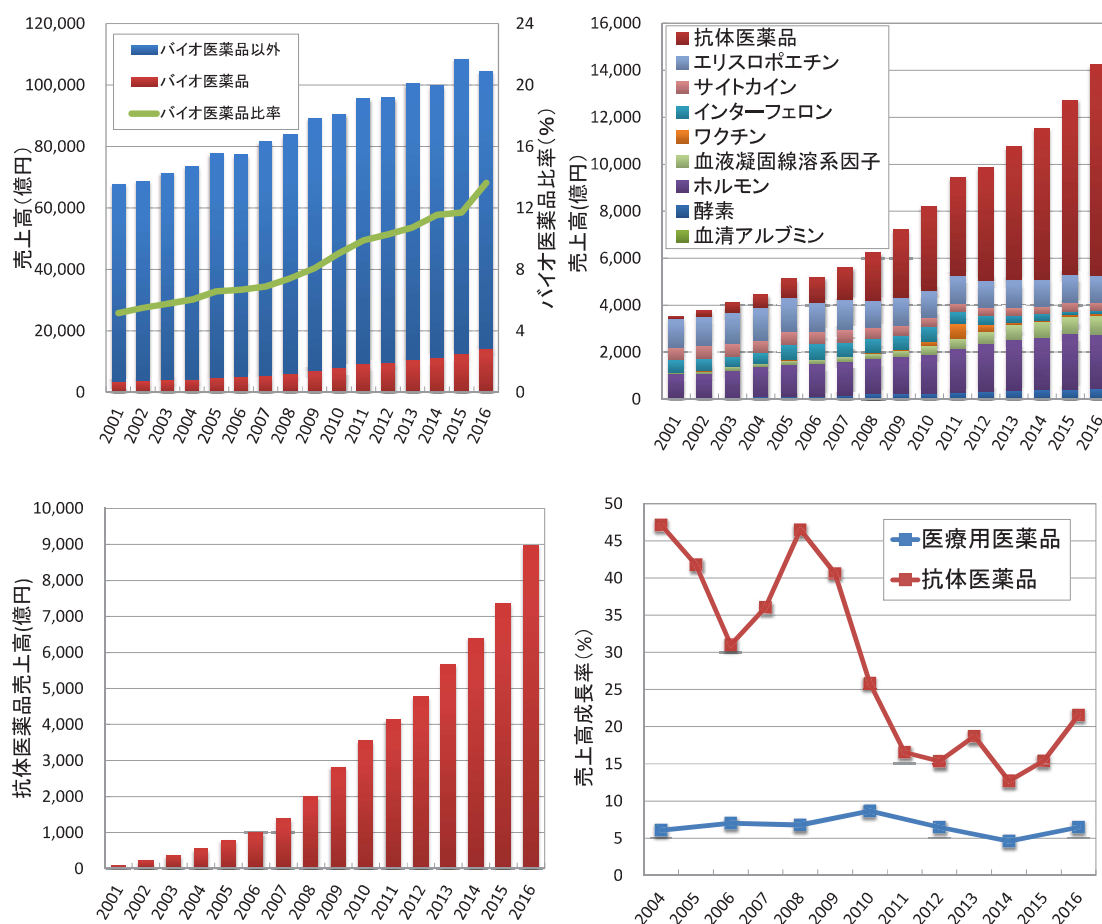
図2 世界の抗体医薬品市場の推移



出所：EvaluatePharma をもとに作成

日本のバイオ医薬品市場の分析を、IQVIA 社（旧 Quintiles IMS 社）のデータを用いて行った。バイオ医薬品の売上高は年々増加しており、2016 年には約 1 兆 4,219 億円（バイオ医薬品比率 13.6%）に達した。（図 3）。日本でのバイオ医薬品市場の内訳を見てみると、2005 年頃は 85%が抗体医薬品以外のリコンビナントタンパクであったのに対し、2013 年には抗体医薬品が 5 割以上を占め、2016 年には 62.9%にまで伸長している。抗体医薬品の売上高は、2016 年は約 8,943 億円であり、医薬品市場の約 8.6%を占めている。また抗体医薬品の市場成長率においては、抗体医薬品が市場に登場し始めた 2000 年代よりは鈍化しているものの、最近数年間においても十数%から 20%前後であり、約数%の成長率である医療用医薬品全体と比較すると、引き続き高い成長率を維持していると言える。

図 3 国内バイオ医薬品・抗体医薬品市場の推移



出所：Copyright © 2018 IQVIA. JPM 2017 年 3 月 MAT をもとに作成 無断転載禁止

このような日本の抗体医薬品市場の伸びについて、過去にどの程度予想できていたであろうか？2007 年、2011 年、2017 年における各予想（点線）と実績（実線）を振り返り、重ねて比較すると、予想を上回るスピードで市場が拡大してきたことが分かる（図 4）。2000